

平成20年度学校経営計画書に対する中間報告

石川県立高浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の扱い（改善策等）
1 基本的な生活習慣の確立を目指し、全教職員の共通理解に根ざした生徒指導に取り組む。	① 現在も行っている入室許可制を徹底し、生徒に遅刻の防止を呼びかける。	遅刻ゼロ習慣期間中に一度も遅刻をしない生徒が全校生徒の A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A	遅刻をしてはいけない意識が基本的な生活習慣の確立、基本意識の向上につながっている。今後は自分たちが出来ることを全員で確実に実行させ、自己実現に向けて努力させたい。また継続して遅刻ゼロ習慣を実施し、期間延長も含めて目標を高く設定して取り組みたい。
	② 面接・礼法指導を通じて、将来の社会生活に適応する生活態度の養成につとめ、礼法などの指導を行う。	面接・礼法指導を受けた生徒に対して、自分の考えが話せるようになったと答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A	就職活動の面接試験対策として礼法指導をするのだが、生徒が企業の内定を得るためという目的が明確なため、礼儀を身に付けようとする個々の意識が高い。同様に志望動機や自己PRなど、自分の考えをしっかりと相手に伝える必要性も認識している。これから進学者に対しての面接・礼法指導が必要となるが、全校規模で指導できる体制を整えて、良い成果を挙げたい。
	③ 健康診断の結果を通知し（受診票配付）受診（治療）率を上げる。	A：歯科受診率40%以上である。 B：歯科受診率20～40%未満である。 C：歯科受診率10～20%未満である。 D：歯科受診率10%未満である。	C	9月25日現在受診率13.7%である。夏休み前に再度受診勧告書を配布したり、保健だよりで呼びかけをしたが、受診しないものが多い。今後更に受診を呼びかけて、治療を促したい。
	④ 支援が必要な生徒への（特別）支援策を検討する。	支援が必要な生徒がいた場合 A：支援が必要な生徒、全員の支援策を検討できた。 B：支援が必要な生徒の内、約7割の子の支援策を検討できた。 C：支援が必要な生徒の内、約5割の子の支援策を検討できた。 D：支援策の検討をしなかった。	支援対象生徒無し	要支援生徒が出てきた場合に備えて、支援体制の整備を進めておきたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の扱い（改善策等）
2 自尊感情を向上させ、自己肯定感を育み、「生きる力」を醸成する。	① 部活動への全員加入を促進し、運動能力等の向上を図る。	部活動への取り組みに対して A：十分満足している。 B：満足している。 C：満足感がうすい。 D：充実感が得られず不満が残った。	生徒のアンケートの結果は、 Aの割合が25%、 Bの割合が52%、 Cの割合が14%、 Dの割合が9%であった。	全体の四分の三程度の生徒が満足しているようだが、四分の一程度の生徒に多少の不満があるようだ。 顧問と生徒に話し掛けて、より充実した部活動にしたい。
	② 2年次のインターンシップを通じて、自己の職業生活をたくましく切り開いていこうとする意欲や態度を身につける。	インターンシップが進路決定の参考になると答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A	インターンシップの活動が、直接的に就職活動になるわけではない。しかし就業体験を通じて、生徒が自分の将来像を描きはじめるきっかけになっているようである。 次年度の改善策は、“きっかけ”にとどまらず、より論理的で明確に将来像を描ける指導方法を考える必要がある。
	③ 浜高祭（文化祭・体育祭）に全校生徒が積極的に参加し、協力して行えるように課題を提供して、生徒の意識を向上させる。	浜高祭（文化祭・体育祭）に A：クラスやサークルの中心となって積極的に取り組んだ。 B：自分の役割を十分に果たした。 C：自分の役割をまあまあ果たした。 D：消極的に取り組んだ。	生徒のアンケートの結果は、 Aの割合が15%、 Bの割合が57%、 Cの割合が24%、 Dの割合が4%であった。	全体の七割程度の生徒は自分の役割を積極的に果たしたようだが、三割程度の生徒はやや消極的に取り組んだようである。 浜高祭の形態を反省して、もっと多くの生徒が積極的に取り組むようにしたい。
	④ 「いしかわ学校版環境ISO」実践校として学校や家庭で節電や節水に積極的に取り組む。	学校や家庭で節電や節水に対して A：積極的に取り組み十分実践した。 B：環境に配慮し、実践した。 C：環境に関心があったが、あまり実践できなかった。 D：全く実践できなかった。	第2回(1月)の環境意識アンケートをもって判断する。	年度始めに、生徒及び職員から昨年度の反省と今年度取り組むべき提案を調査したうえで、今年度の活動計画をまとめた。第1回の環境意識アンケートでは、各項目で意識の向上が見られたことは、ISOへの取り組みが少しずつではあるが定着しているものと考えられる。また夏休み中には、「県民エコライフ大作戦」に生徒・職員で取り組み、文化祭では各クラスに環境に関するポスターを作成してもらい掲示した。継続することが効果と考えられる。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の扱い（改善策等）
3 基礎学力の向上と個々の能力、適正等に応じた進路実現のため計画的・組織的な指導体制の確立を図る。	① 研修・研修講座に積極的に参加し、教育ウィーク等を機に公開授業を展開し授業の改善を進める。	公開授業を実施し、外部の意見等を踏まえ A：授業改善が十分進んだ。 B：授業改善が十分とは言えないが生かされた。 C：授業改善が少し生かされた。 D：授業改善に生かされなかった。	教育ウィーク期間終了後に、アンケート調査を行い判断する。	本校教員は、今年度県教育センター主催研修講座に10人の参加を始めとして、教育課程研究集会、各教科部会等にも積極的に参加し研修に努めている。また、今後も2教科において、教科指導等研究会で研究授業を予定している。 現在教育ウィークを控え、志賀広報、本校ホームページ等に実施計画を載せ、広く地域住民に広報活動を行っている。
	② 各教科で定期（中間・学期末）考査と定期考査の間に、最低2回以上の確認テストを実施することによって、基礎学力の向上と家庭学習の意欲を高める。	A：家庭学習を毎日2時間以上した。 B：家庭学習を毎日1時間以上した。 C：家庭学習を毎日30分以上1時間未満した。 D：家庭学習を毎日しなかった。	D	前期アンケート調査の結果、家庭学習時間には大きなクラス差があったものの、1日当たりの家庭学習時間の平均は約22分であった。また、家庭学習の内容についてみると、宿題と授業の復習と答えた生徒が圧倒的に多かったので、この点を踏まえて、今後も本校教員に対して、この取り組みを積極的に働きかけていきたい。
	③ 学年毎に重点科目について補習授業を行い、進学希望者の実力向上を期すると共に各種模擬試験を行い、結果の分析を進学指導に活かす。	普通科1年生の実力テストと2・3年生進学希望者の補習授業・各種模擬試験の参加率が A：90%以上が受講・受験する。 B：80%以上90%未満が受講・受験する。 C：70%以上80%未満が受講・受験する。 D：70%未満しか受講・受験しない。	B	模擬試験は、全学年とも進学希望の90%以上の生徒が参加している。しかし、補習授業の参加率が80%余りであった。 模試や補習の必要性を受講する生徒に理解させ、受験勉強に向かう意識付けを徹底させることがこれからの課題である。
	④ 社会や職業の構成や意義をよく理解し、認識させる。そのために進路に関する情報を整理・把握し、効果的活用を図る。	進路からの情報が適切で満足できると答える保護者の割合が A：60%以上である。 B：50%～60%未満である。 C：40%～50%未満である。 D：40%未満である。	A	64.6%の保護者が情報提供に満足しているが、逆に満足に至っていないという意見が3割以上であることも問題である。 この割合を減らすために、進路指導に係わる資料の提供や講話の機会を増やし、また有効活用する方法を工夫していきたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の扱い（改善策等）
4 「開かれた学校作り」の一層の推進を図る。	① 保護者や地域住民との交流機会を増やすために、3年生の課題研究及び総合的な学習の時間の研究発表会などの学校行事を休日開催にし、保護者等にも見学してもらって教育活動の理解に努める。	発表会を一般の人にも見学してもらい A：参加者の80%以上が発表に満足している。 B：参加者の70%以上が発表に満足している。 C：参加者の60%以上が発表に満足している。 D：内容に満足とした参加者が50%未満であった。	実施後のアンケート調査で判断する。	現在、3年生は課題研究及び総合的な学習の時間の発表会に向けて、積極的に取り組んでいる。また、発表会は来年の1月に行うので、今後志賀広報や本校ホームページ等を実施計画を載せ、広く地域住民に参加を呼びかけていきたい。
	② 周辺地域住民を交えての合同防災訓練を実施したり、海岸清掃やクリーンキャンペーン、街頭指導を行うなどをして、地域に貢献しながら地域一体型の学校を目指す。	学校発信文（学級通信やPTA通信）以外で学校の様子や情報を目にしたのが A：5回以上であった。 B：3回は目にした。 C：1回は目にした。 D：一度も目にしたことがない。	第2回(1月)の学校評価アンケートをもって判断する。	今年度は生徒の活動様子を知ってもらうために、地元新聞社に多く記事を載せてもらっている。海岸清掃ボランティア、夏の高校野球全校応援、体育祭での園児遊技、薬物乱用防止教室、方言かるたの作成と寄贈、就職模擬面接、文化祭、異世代交流活動等多くの活動がすでに記事となっている。さらに今年度は射撃部の国体出場や野球部の活躍があって学校の様子を知った保護者も多いと推測する。 この10月には地域住民を交えた合同防災訓練を実施する。また海岸清掃ボランティア、同窓会総会そして文化祭では町中にポスターを掲示するなどして発信もした。第2回の学校評価アンケートでは、必ずや良い結果が出るものと確信している。
	③ 保護者による学校行事、PTA総会や講演会、研修旅行などへの参加者増加を推進し、保護者と学校側が一体となって生徒理解に努める。	一年間で来校した回数や学校行事に参加した回数が A：5回以上である。 B：3回以上である。 C：1回以上である。 D：0回である。	第2回(1月)の学校評価アンケートをもって判断する。	PTA総会では、保護者数148名中30名の出席があり、PTA研修旅行では12名の参加があった。また9月にPTAが企画した校舎内環境整備（ペンキ塗り）では6名の保護者が参加して、ボランティア生徒、職員46名と共に汗を流して活動した。文化祭の「ちらし寿司販売」では、その事前打ち合わせに16名、当日に15名の保護者の参加があり好評であった。年々PTAの活動は活発になってきているが、来校して活動してくれる保護者は役員の方が多く固定している、少しでも多くの一般会員の保護者が来校してもらえるように、10月のマラソン大会の「豚汁サービス」や講演会等で参加を呼びかけたい。
5 平成21年度開校の石川県立志賀高等学校の準備に万全を期す。	① 各分掌が一体となって地域住民や中学生にPR活動を行い、新高校に対する理解と支援を得る。	高校主催の学校説明会に参加した中学生が新高校の情報を得られて A：説明が分かりやすく、魅力ある学校で、ぜひ入学したいと思った。 B：新しい学校のこと分かって、入学する気持ちが湧いてきた。 C：新しい学校の様子は理解できたものの、まだ受験を迷っている。 D：説明会に参加したが、受験先とはしない。	C	8月26日、27日実施の体験入学では、101名の中学生が参加した。アンケート結果から、97%の生徒が志賀高校とはどんな学校であるのかが理解できたとの回答であった。しかし志賀高校の受験については、まだ受験を迷っているとの回答が42%であった。体験入学時では、まだ募集定員が確定していなかったが、普通科80名、総合学科80名と定員が決まった。定員を充たすにはまだまだ至らず、これから中学校訪問等を積極的に行い、志賀高校のPRに努めて行かねばならない。
	② 各分掌が一体となって近隣中学校、教育機関等に出かけて、新高校のPR活動を行い、新高校に対する理解と支援を得る。	本校教職員が、各種学校説明会に出かけた回数の合計が A：7回以上である。 B：5回以上である。 C：3回以上である。 D：1回である。	C	現在までに、富来町と志賀町に1回ずつ、また中能登地区の中学生に対して1回、体験入学での説明を行ってきたが、今後もあらゆる機会を通して説明PR活動を行っていきたい。